

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	おんぷ		
○保護者評価実施期間	R7年 1月 11日		～ R7年 2月 8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22世帯	(回答者数) 16世帯
○従業者評価実施期間	R7年 1月 11日		～ R7年 2月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 2月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	非常勤も含め、多職種がいる為、より専門性のある療育を行うことが出来ている。	活動後など児童の様子を多職種で意見を交換するように様々な視点で、児童に合った支援の仕方を考えている。また非常勤で心理士の外部講師に来ていただき必要に応じて介入してもらっている。	活動時だけでなく学習時に介入する職員を固定せず、いろんな視点から見られるように交代で支援に入る様にする事も考えていく。
2	活動内容や月案などを書類やSNS等で発信し、日頃の活動の様子をお伝えすることが出来ている。	集団活動の月案を作成し、保護者にお渡ししている事や、SNS等を使用し活動の様子を写真や文面でお伝えすることが出来ている。	SNSやおたより等を定期更新するようにし、日頃から活動の様子を見てもらうだけでなく、自宅でも保護者様が児と向き合う機会を作れるようにしていけるようにする。
3	学校との情報共有を行いより良い支援を行えている。	学校行事の見学や送迎時、可能な時には担任の先生との情報共有を行っている。また、児童が環境が変わっても穏やかに過ごせるよ、進級時には子ども理解表を作成しお渡ししている。	状況を見ながら、定期的に担任の先生と文書や面談を行い学校での過ごし方や学習面、他との関わり合い等を理解して行くことが必要。また、学校との支援方法を統一して行くことも必要。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用数に対してのスペースが限られている。	集団活動では、体格が大きくなり運動量も増えている為、リスク管理や難易度の調整等が難しい。また、静の活動の際にはスイングのフレームが視界に入り集中力に影響が出てしまう事が多々ある。	事業所内での活動だけでなく、運動内容によっては、野外や公共施設等を利用して年齢層やレベルにあった療育を行い、周囲との関わり合いや社会性を身に付けられるようにしていくことが必要。
2	多忙なご家庭との面談が出来ていない。	計画書の作成時等はお話をする機会があるが、職員の配置やその時の状況によって、保護者様との定期的な面談は行えておらず、子供の現状やニーズなどを把握しきれないことがある。	ご家族の状況を確認しながら面談日をあらかじめ設定しておくようにする。また面談が難しい場合は連絡アプリを使用し、日頃の様子や困り事などをこまめに送って頂くよう保護者の方に説明をし促していくことが必要。
3	地域の方々や子供たちと活動の中で接する機会がない。	コロナ禍の頃からの影響もあり、活動の中で地域の方との関わり合いは少ない。現在も感染症等の問題があり実施することは出来ていない。	インクルージョンという点で、今後児童たちがより過ごしやすい環境づくりが出来るよう、事業所主体で地域の方々や他事業所との関わり合いを図ったイベントを実施したり、地元のイベントに活動として参加する等を積極的に実施して行くことを考えていく。